

模擬授業における課題意識

—教職実践研究Ⅰの実践から—

田 宮 弘 宣〔鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター〕

Students' Awareness of the Problems of their Trial Lessons:

Through the Education Practice of the Course "Practical Studies for Teaching I"

TAMIYA Hironobu

キーワード：教員養成，実践的教職科目，学習指導案，模擬授業，自己課題

1 はじめに

「教職実践研究Ⅰ」は、平成19～21年度の特別教育研究経費事業「県教育委員会との連携による新しい教員養成カリキュラムの開発」において、学部カリキュラムに位置づけた「実践的教職科目」群の一つで、2年時前期に実施しているものである。この科目では、教師の中心業務である学習指導の基本的な力量形成やそのための課題について、学習指導案を作成して模擬授業を行うことにより、実践的に学ぶことを目的としている。本年度で3年目の取組となるが、この3年間の受講者数および模擬授業を実施した教科ごとの人数は表1のとおりである。

表1 3年間の受講者と模擬授業実施教科

年度・校種	H20		H21		H22	
	小	中	小	中	小	中
国語	6		7		4	3
社会	2		5	4	5	
算数・数学	7		8	1	3	
理科	1	2	6			
生活	3					
音楽	2		1			
図工・美術			6			1
家庭			4			
英語		3		3		
受講者計	26		45		16	

本科目の学習目標を表2に示した。特に学習指導案作成における「授業デザイン力」や模擬授業の実施における「授業展開力」など、学習指導の力量形成を目指しているが、そのすべてを本科目が担うというものではない。本科目を履修することを通して、力量形成を図るための具体的な課題や目標を明らかにしながら、それぞれの教科に関

して、教科教育や教科専門の科目などでさらに深く学ぶ必要がある。学修目標として「自己改善力」の視点をおいているのも、この点を踏まえたものである。

本稿においては、この「自己改善力」の視点から、受講者が「授業（模擬授業）」についての自分の課題をどのようにとらえているのか、また、学習指導案作成・模擬授業実施という実践的な取り組みの各段階において、どのような課題意識を持っていたかについて報告する。

表2 学修目標

- | |
|---|
| (1) 児童生徒に学力向上を図る授業を目指して、授業前、授業中、授業後の各段階における基礎的・基本的な事項（教育課程や指導法の理解等）を身につけるとともに、1時間の授業を構想し、指導案を作成することができる。【授業デザイン力】 |
| (2) 「学習指導」に関する力量形成を目指して、自分の課題を明らかにしながら、意欲的に授業参観をしたり、指導案作成を行ったりし、その解決に進んで取り組むことができる。【自己改善力】 |
| (3) 学習指導の基礎的、基本的事項についての理解に基づきながら、模擬授業を行ったり、協力して授業研究やその省察を行ったりすることができる。【授業展開力、協働連携力】 |



写真1 小学校国語の模擬授業

2 授業の概要と課題意識の把握について

本年度は表3に示した授業計画で進めた。基本的な流れは昨年度と同じであるが、模擬授業後の振り返りの時間が十分でなかった反省から、各教科グループでの取組の振り返りの時間を増やした(第14回)。その分、学習指導及び学習指導案作成に関する基本的な理解を図る段階の内容を精選し、附属学校での授業参観までの前半を1回分削りコンパクトにした。

表3 教職実践研究Iの授業計画概要

回	主な内容
1	自己診断, 学習指導案の目的や作成手順
2	授業の進め方, 指導法の工夫等
3	きめ細やかな指導-発問や板書の基本・基本
4	授業観察をもとにした指導案作成
5	授業参観の準備(参観授業指導案の分析)
6	授業参観(附属小・中学校の研究公開参加)
7	授業参観の振り返り・協議
8	教材研究の進め方(教科別)
9	模擬授業の学習指導案作成(教科別)
10	模擬授業の学習指導案検討(教科別)
11	模擬授業の準備・シミュレーション(教科別)
12	模擬授業と授業研究①(教科別)
13	模擬授業と授業研究②(教科別)
14	学習指導案作成・模擬授業の振り返り
15	授業づくりと今後の課題(総括・振り返り)

自己課題については、第1回で「学習指導に関する自己診断(課題チェック表)」(資料1参照)を実施し、模擬授業の教科を設定するとともに「自分の目標」として自由記述させた。

Q① 学習目標や自己診断を踏まえて、自分はどんなことを身に付けたいか、どんな力を伸ばしたいかなど、自分の目標とする課題や克服したい課題を、具体的に記述しなさい。

また、第8回、模擬授業の授業単元が具体的に決まって、学習指導案作成に入るという段階で、「自分の課題(目標)」として自由記述させた。

Q② 指導案作成・模擬授業の活動で、自分が課題(目標)としたいこと

その上で、学習指導案作成・授業準備を進める中で、新たに考えたことや気づいたことを各回記録させていくとともに、模擬授業を実施する段階で、再度「自分の課題(目標)」として自由記述させた。(資料2「活動の振り返り」シート参照)

Q③ <模擬授業前>自分が課題(目標)としたいこと

第15回では、第1回目の結果と比較させながら「学習指導に関する自己診断(課題チェック表)」を再度実施し、学習指導や授業づくりについて、考えが深まったり、新たに気づいたりしたことや、3年時の教育実習を想定しながら今後さらに自分の課題として取り組みたいことを記述させた。

3 授業の各段階における課題意識

各受講生の課題意識について、以下に①第1回の「自分の目標」、②授業づくりに入る段階、で記述した「自分の課題(目標)」、③模擬授業を行う段階で記述した「自分の課題(目標)」という順で整理して示す。なお、自由記述させたものから、課題として意識していることを項目として抜き出している。また、<>書きで示したのは模擬授業の教科である。

a <小学校・国語>

① (授業をするのは自分の今の状態では難しい) / 何を教えたいのか / どういった工夫をすればいいか / 教師になるとき役立てること・さらに学ばなければならないことを明確に

② 生徒の反応を想定…パターンに応じた授業の進め方 / 板書…書くべきことと紙で準備しておくことを区別 / 資料は生徒の動きやすい流れを考えて構成

③ 発問のあとの考えさせる間 / 生徒の反応に応じて発問を変える / 発問が同じパターンにならないように / 生徒の発表は目線を合わせて聞き、教師としての考え・アイデアをプラス

b <小学校・国語>

① 学習指導要領を熟読・理解 / 計画的な授業 / 頭を柔らかくして授業をデザイン

② 生徒主体の言語活動 / 他教科との関連付け…学際的に

③ ノートをとりにやすい板書 / 字を大きく丁寧 / めあてまでの流れをスムーズ / 発問計画

c <小学校・国語>

① 教科のカリキュラムの理解 / 授業設計で必要なこと / 分かりやすい授業とは…自分なりに考え工夫していける能力

② 発言に応じた発問／自然な流れを意識した指導案づくり／板書の教材を見やすく／状況・場面に応じた話し方／児童を主体とした授業づくり

③ 発問…自然な流れ・同じことの繰り返しにならない／大事な活動の前に具体例やモデル／板書を分かりやすく／子どもの意見をまとめる板書／言葉遣い／児童の方を見る

d <小学校・国語>

① 学習指導要領を使って指導計画／時間配分やそれぞれの目的を把握できる

② 今している作業は何のため…目的を持つ／単元全体の流れ・授業の単元での位置を明確に

③ 分かりやすい言葉・ゆっくりとした話し方／子供が自然に思いつく発問／興味を持たせたり、考えさせる間／生徒の方を見て…書く・聞くで区切って／次の活動・行動を意識

e <小学校・算数>

① 学習指導要領を理解／適切な授業を構成できる／学習指導案を作成できる

② 児童の考えを否定しない／分かりやすい例／興味を持てる教材・教具

③ 児童の考えを引き出し、楽しめる授業／教材の提示…興味をひきつける工夫・話し方



写真2 小学校算数の模擬授業

f <小学校・算数>

① (初めて学習指導案を見てとても驚いた)／学習指導案の作り方／指導案に沿った授業

② 子供が興味・関心を持ち、学びたいと思える授業／教材・教具／板書

③ 不安や焦りを隠し、堂々と／自分の作った指導案を100%の力で実行

g <小学校・算数>

① 教育実習で…積極的・能動的に行動できるように／基本的な知識／授業に向けての練習／自分の目指している職業…もっと深く理解／自分に必要なこと／実際に行動につなげる

② 興味を持ちやすい導入／しっかりした筋／大きな声と笑顔／言いたいこと・伝えたいことがブレない授業

③ 聞き取りやすい声／しっかりした態度…不安を表情に出さない／状況に応じてヒント…自分の構想に近い形へ／興味を持たせるような発問／児童の様子を見ながら対応



写真3 小学校社会の模擬授業

h <小学校・社会>

① (分からないことが多い)／指導案の理解／指導案を作成できる力／授業前の準備から授業、その後の反省までの流れ／他の教職志望者から学ぶ

② 考えた流れに沿った授業／分かりやすい発問／分かりやすい板書

③ 発問・板書・ワークシートをうまく利用…考え、発表してもらえる、流れのある授業

i <小学校・社会>

① 学習指導案の書き方／学習指導の進め方／児童生徒に配慮した授業展開／板書・発問のコツ

② 板書の工夫／興味・関心をひく／発問の仕方／伝えたいことを分かりやすく

③ 授業がどんなものであるか理解／発問や板書の仕方／児童の理解を深められる

j <小学校・社会>

① (カリキュラムに関する理解や学習指導要領に対する知識がない)…知識・理解を深める／授業デザイン力／工夫された分かりやすい授業

- ② 資料（絵など）を使った授業／導入に重点…子供の興味を引く／考えさせる場面と知識をつけさせる場面のバランス
- ③ 資料を中心に、子供の発言を手がかりに…授業を展開

k <小学校・社会>

- ① 今の自分に足りないもの、さらに伸ばせるものを発見
- ② 出してほしいキーワードをうまく出させる促し方／飽きさせない工夫／一人一人が自分の考えを持てる工夫／声は大きく、ハキハキと、メリハリつけて
- ③ 出してほしいキーワードをうまく出させる発問／一人一人が自分の考えを持てる工夫／声…大きく、はっきり、メリハリつけて／時間配分／堂々とした態度

l <小学校・社会>

- ① 必要な法律の理解／できるようになったこと…もっとよりよくするために何が必要か
- ② 表情を使いこなせるように／グループ学習を活用…個別の指導も／生徒の発言へのアシスト
- ③ 表情、目を合わせて話す／グループ学習と個別学習をしっかりと／話の流れを考える／板書で無駄な時間を使わない



写真4 中学校国語の模擬授業

m <中学校・国語>

- ① (授業の組み立て方について何も分からない状態)／授業計画を立てられる／分かりやすい、興味を持てる授業の工夫
- ② 教材研究…どこで何を伝えるか、何が目標か／子供たちからどんな意見が出るか考える／退屈しないような授業

- ③ 生徒の方を見る／板書計画・発問計画／スムーズな流れ／緊張しない、笑顔で

n <中学校・国語>

- ① (どう授業を展開したらよいか分からない部分が多い)／自分の指導案／分かりやすい授業／子どものやる気・興味を引き出せる授業
- ② 分かりやすいように／何がねらいか伝わりやすいものに
- ③ 分かりやすいように／ほどよいテンポのある授業／生徒の発言への対応

o <中学校・国語>

- ① 指導案を作成し教壇に立つ…自分はどんな気持ちになるか／どうになってしまうのか…今の自分を把握する
- ② 生徒が積極的に参加できる展開／具体的な課題を見つける
- ③ 生徒の顔を見て／自信を持って

p <中学校・美術>

- ① (授業・教育実習・学習指導案…実力・理解が不足と感じる)／学習指導に必要な力や要素をたくさん習得／実習に行けるレベルまで／教科の専門性も伸ばす
- ② 説明が下手なので何とかしたい／自分の専門性を高める／時間配分／教材選び／今までに参観した素敵な鑑賞授業を目標に
- ③ 楽しくできるように／時間配分／教材・教具の準備／みんな頑張っているので負けない



写真5 中学校美術の模擬授業

第1回目の自己課題についての記述を見ると、授業をするために、何が必要で、どのような準備をすべきなのかなど、分からないことが多く、授業をすることへの不安な様子がうかがえる。また、学習指導についての基本的な理解も十分でない

め、記述も具体的でないものも多い。学習指導案を見るのも初めてという受講生もいる2年生の状況であり、授業の前半に計画しているように、学習指導要領やカリキュラム・指導計画といった基本的な事柄も含めて、授業を成立させている要素をとりあげ、授業をすることのイメージを持たせていくことは必要な内容であると考えられる。

これらの取組を通して、実際に授業単元を決め、学習指導案を作成する段階になると、自己課題についても具体的な指摘ができるようになってくる。②授業づくりに入る段階と③模擬授業を行う段階で記述した項目について、さらにキーワードを立てて分類したものが、表4である。なお、指摘しているのが1名だけで、かつ分類が不明確なものも省いてある。

表4 自己課題の分類

キーワード	②	③
教材や資料	6	2
児童生徒の興味・関心	6	1
分かりやすいように	4	1
教師の態度	3	12
発問	3	10
板書	3	4
授業の流れ	2	5
児童生徒への対応	2	3
理解を深める	2	3
児童生徒主体の活動	2	0
児童生徒の反応予想	2	0
話し方や間	1	6
時間配分	1	2
例示の工夫	1	1
教材研究	1	0
単元の計画	1	0

このことから、授業づくりの段階では、児童生徒の興味関心や分かりやすさを重視しながら、教材や資料を工夫することを課題として意識している傾向がみられる。これらの準備を進めたのち、模擬授業を行う段階では具体的な発問や分かりやすい言葉や話し方、話すときは児童生徒の方を見ろといった教師の態度などを強く意識している様子が見えてくる。

模擬授業の様子や評価などは、今回の報告では詳しくは触れないが、失敗やうまくいかない点もありながら、第1回の記述にある不安な様子とは見違えるように、どの受講生も堂々と取り組んでいたのが印象的である。

このような取組を経て、受講生が自分自身の学

習指導に関する力量形成をどのように自己評価しているかについて、項を改めて述べる。

4 自己診断結果について

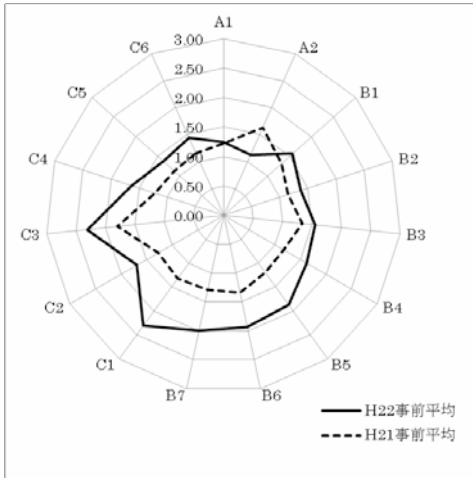
「学習指導に関する自己診断(課題チェック表)」については、各項目を4～1の4段階で評価させている。表5は、平成21年度と平成22年度の事前(第1回)と事後(第15回)の自己診断について、受講者の評価平均を示したものである。

表5 自己診断の結果(受講者平均)

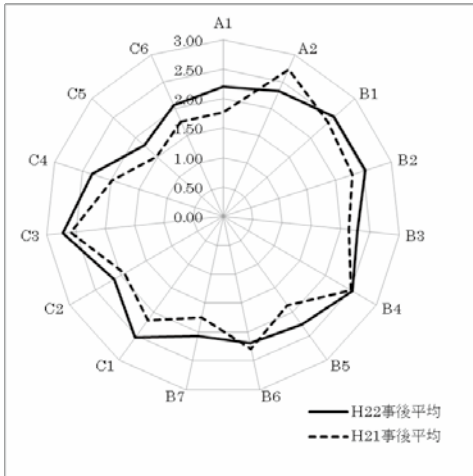
チェック項目		年度, 事前・事後		H22	H22	H21	H21	
		事前	事後	事前	事後	事前	事後	
カリキュラムの理解	A1 (教科の目標や指導内容)	1.25	2.20	1.22	1.76			
	A2 (単元の目標や指導内容)	1.13	2.33	1.63	2.73			
	教材分析力・授業デザイン力	B1 (教材の分析)	1.56	2.53	1.32	2.39		
		B2 (単元の指導計画)	1.38	2.53	1.15	2.30		
		B3 (目標の設定)	1.56	2.29	1.34	2.14		
		B4 (指導過程の構想)	1.63	2.53	1.17	2.51		
		B5 (分かる授業の工夫)	1.88	2.27	1.20	1.86		
B6 (定着の工夫)		1.94	2.20	1.34	2.29			
B7 (特別支援教育の視点)		2.00	2.07	1.29	1.75			
授業展開力・授業評価力	C1 (説明・発問)	2.31	2.53	1.32	2.17			
	C2 (板書)	1.69	2.13	1.27	1.93			
	C3 (KR)	2.31	2.73	1.80	2.60			
	C4 (機器・教具等の活用)	1.63	2.33	1.22	1.98			
	C5 (評価基準の設定・活用)	1.38	1.80	1.12	1.51			
	C6 (授業の評価と改善)	1.44	2.07	1.15	1.76			

この事前の自己診断と事後の自己診断をグラフにしたものが、グラフ1とグラフ2である。年度で評価点の違いはあるが、よい評価をつけている項目とまだ十分でないとの評価をつけている項目については、ほぼ共通の傾向がみられる。このことは事前についても事後についても同様であると言える。

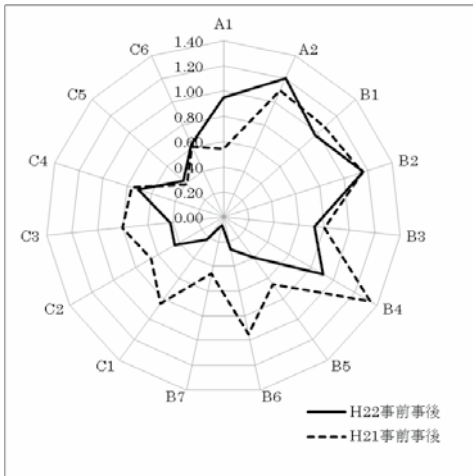
また、グラフ3は事前事後での評価点の差をグラフ化したものである。どちらの年度でも、A2及びB1～4は変容の度合いが大きい項目である。本科目での取組を通して、「単元」レベルのカリキュラムについての理解、教材の分析に基づ



グラフ1 事前の自己診断 (受講者平均)



グラフ2 事後の自己診断 (受講者平均)



グラフ3 事前事後の変容 (受講者平均)

く目標の設定や指導過程の構想などを中心に、学習指導に関する力量形成の手がかりを得ていると考えられる。

5 今後に向けて

第15回での振り返りの記述を見ると、教材研究や教材・教具の準備、発問計画など、具体的な取組に触れながら、その難しさを理解しつつ、今後しっかりと身に付けていきたいという意欲が感じられた。その中の一人の記述について、少し長い全文紹介する。

美術という教科が“教えづらい”“得意な子のための教科”“なんか遊びのような肩の力を抜く教科”というものだ、始まる前は本当にそう考えていました。指導案のいらぬ教科だとか、副教科と呼ばれているようなイメージも強く、こう“適当”という言葉の似合うものだと思ってました。しかし、三か月間の中で、学校の授業としての美術のことで、美術の授業に先生方が込められている思いをよりよく知ることができたことに加え、模擬授業づくりやその実施で、“美術の魅力を伝える授業とそれをできるときの喜び”“より多くの子供たちにすてきな美術活動を知ってもらうための自分の取り組み、やりがい”などについて考えることができ、なめてかかっていた美術の“授業”というものが、本当はもっとわくわくするものだという事に気づくことができた。指導案の計画で、より授業を練っていたら時間を忘れていたほど、この教職の魅力の一つに気づけたのではないかと感じた。すごく充実した時間だった。

本科目での取組は、授業を実施する際、教師が行うことを、ある意味「方法」として提示し、実践しながら身に付けていくというものである。もちろんそのことは重要であるが、上記の記述から、さらに学生の持っている「教科観」や「授業観」に揺さぶりをかけ、深めていくことができること、また、そのことの重要性に改めて気づかされる。

「授業をすることは、本当はもっとわくわくするものだ」、もっと多くの学生にこのことに気づかせ、実感させていきたいと考える。

【資料1】 学習指導に関する自己診断（課題チェック表）

学習指導に関する自己診断（課題チェック表）	学籍番号	所属専修	氏名	性別

※ 4：該当する 3：どちらかという該当する 2：どちらかという該当しない 1：該当しない

A 各教科等のカリキュラムに関する理解

番号を○で囲む

1	学習指導要領に記載されている当該教科及び当該学年・分野等の目標や指導内容の全体像について、基本的な理解ができています。（教科の目標や指導内容）	A 1	4	3	2	1
2	学習指導要領や年間指導計画をもとに、当該単元の目標や指導内容及び前後の単元との関連について、理解ができています。（単元の目標や指導内容）	A 2	4	3	2	1

B 教材分析力及び授業デザイン力

1	教科書や関連資料などを分析して、授業で扱う内容の教育的価値や目標を明確にするとともに、指導すべき基礎的・基本的な内容を明確にすることができる。（教材の分析）	B 1	4	3	2	1
2	目標に即して、単元における各主題や指導課程の設定、時間配分等を行うことができる。（単元の指導計画）	B 2	4	3	2	1
3	単元の指導計画に基づきながら、子どもの実態や意識を踏まえて、本時の目標を適切に設定することができる。（目標の設定）	B 3	4	3	2	1
4	導入・展開・終末の基本的な指導過程を踏まえて、一単位時間の指導の流れを構想することができる。（指導課程の構想）	B 4	4	3	2	1
5	子どもの実態や定着の状況を踏まえて、学習形態を工夫したり、具体物の提示や実験を工夫したりするなど、分かりやすい指導を工夫することができる。（分かる授業の工夫）	B 5	4	3	2	1
6	大事なことがらを繰り返し指導したり、応用・活用する学習場面を設定したりするなど、基礎的・基本的なことがらを定着させる指導を工夫することができる。（定着の工夫）	B 6	4	3	2	1
7	個々の特性や特別な配慮を必要とする児童生徒への対応を考慮し、教材・教具を工夫したり、指導方法を工夫したりすることができる。（特別支援教育の視点）	B 7	4	3	2	1

C 授業展開力及び授業評価力

1	はっきりとした話し方や声量で、子どもたちに分かりやすい説明や発問・指示をすることができる。（説明・発問）	C 1	4	3	2	1
2	学習の流れに沿って構造化した板書や、子どもの反応を生かせるように計画した板書など、分かりやすく丁寧な板書ができる。（板書）	C 2	4	3	2	1
3	子どもたちの発言や反応に対して、話し方やうなづき・微笑みなどの表情を工夫したりして、的確なKRを返すことができる。（KR）	C 3	4	3	2	1
4	興味・関心を高めたり、分かりやすい授業を展開するために、視聴覚機器や教具などを効果的に活用することができる。（機器・教具等の活用）	C 4	4	3	2	1
5	目標を達成した具体的な子どもの姿を設定しておき、計画的に評価することができる。（評価規準の設定・活用）	C 5	4	3	2	1
6	学習中や学習前後の評価をもとに、その後の指導計画を修正したり、補充指導や授業の改善に役立てたりすることができる。（授業の評価と改善）	C 6	4	3	2	1

【資料2】「活動の振り返り」シート

教職実践研究 I

活動の振り返り

{小・国語}

学籍番号	所属専修	学年	氏名
	国語	2	

<5/28> 指導案作成・模擬授業の活動で、自分が課題(目標)としたいこと

◦ 考観した授業で自分が正しいと思、たことと補う。
 ◦ 生徒の反応をいくつか想定し... に対応した授業の進め方を考える。
 ◦ 黒板に書くべきことと、紙で事前に準備しておくことを区別する。
 ◦ 資料は、生徒が動きやすいように流れを考えて構成する。

<新たに気づいたことや考えたこと、考えが変わったこと>

6/4	生徒がどのような反応を示すかに応じて授業の流れは変わ、てくると改めて感じた。教師の自己満足で終わらないように、生徒が「楽しい」と思えたり、興味を持つたりするポイントを授業に取り入れる必要がある。
6/11	前回の授業と後の授業のつながりをも、と深く考える必要があると感じた。また、1回の授業にいろんなことを積み込まずぎで1時間で終わらない可能性がある中で、内容を厳選して行うと思った。
6/18	前回の反省であった時間と内容のバランスを改めて検討した。時間のことを考えて最後の部分を次の時間にくりこすことにした。指導案はある程度完成に近づいてきているので、これから発問や板書について具体的に考えていこうと思う。
6/25	今日は、指導案を作成し終わり、発問計画と板書計画を考えた。発問計画はすんなり進んだが、実際は時間通りに進むのが少し心配な点がある。板書計画は、子供たちの作業が多いため、あまりふくらまなかった。ワークシートなどをいかに子供たちが動きやすいように工夫するかが、授業の進めに影響するだろう。

<模擬授業前> 自分が課題(目標)としたいこと

◦ 発問をしたあとの生徒に考えさせる間をしっかりとる。
 ◦ 生徒の反応に応じて発問を変える。
 ◦ 発問が同じパターンにならないように変化させる。
 ◦ 生徒の発表は目標を合わせて聞き、そこからまた教師としての考え、アイデアをプラスする。